

# 深イ〜話!

No.44

夏の高校野球甲子園大会で、史上7校目の春夏連覇を果たした大阪桐蔭高校。  
その野球部を率いる西谷浩一監督の記事より――



私がここ最近変わったなと思うのは、メンバーから外れた子たちが非常によくやってくれるチームになった、ということです。10年ほど前までは夏のメンバー発表が終われば、そこから外れた子は寮を出るのが決まりだったんです。メンバーから外れて気持ちも少し切れているだろうから、彼らは家から通わせるようにしようと。

ところが、私が監督になって3年目の時、皆が寝静まってからキャプテンが相談に来たんです。

「メンバー発表が終わっても、3年生全員を寮に残してほしい」と。

私は内心すごく嬉しかったんですが、理由を尋ねると

「監督はいつも、1つのボールに皆が同じ思いになれば、“一球同心”と言われているのに、メンバー外の3年生が寮を出たらお互いに溝ができてしまう。一球同心が本物にならないと思います。」

と言ってくれたんですね。

夏のメンバー発表をする時には、背番号をつけてやれなかった子たちがベンチ裏でワンワン泣いているんです。でも次の日には彼らのほうから「チームのために何かやらせてほしい」と自ら言ってくるようになった。そして打撃投手をしてくれたりするんですが、私が一番してもらいたいのは、相手チームの偵察なんですね。

1、2年生より3年生のほうが野球をよく知っているから、絶対にいい分析ができる。ただメンバーから外れた3年生にそれを頼むのは非常に酷なことなんです。その彼らが「偵察にも行きます」と自分から言ってくれるようになり、そこから何かが変わってきた。

3年生の外れた仲間たちがビデオを撮りに行ったとなると、メンバーもいい加減には見られなくなる。そうしたことで合宿所自体の雰囲気が変わってきました。

今回の甲子園では、決勝戦が1日雨で流れたんです。メンバーはその日、室内練習場で練習をしますが、宿舎に残っている3年生は部屋で寛いでいてもいい。

ところがその彼らが、決勝で当たる光星学院の一回戦から準決勝までのビデオ4本を全部見直して、一からデータを取ってくれたんですね。

負傷した4番の子の代わりに入った子が、実は全然打てていなかったんです。

分析の結果、ワンストライクツーボールというカウントになると、8割以上の確率でスライダーを投げってくるデータが取れていた。

そして翌日、1イニング目に彼の打席でそのケースが訪れたんですね。私は頭にデータがあったので、スライダーのサインを出した。そうしたら彼も「分かってるぞ」という顔をしたんです。

私もスライダー来い、スライダー来い、と念じていたんですが、やってきた球が本当にスライダーで、それを打ったらホームランで……。

だから、あれは本当にメンバー以外の子たちが打たせてくれたホームランで、スタンドにいる子たちもすごく喜んでいた。たぶん彼らもスライダー来い、スライダー来いと思っていたんでしょうね。

試合に出ていない子の力がいかに大切か、その子たちの力が関わってきた時に、チームは本当の力を発揮するんだなと改めて感じましたね。